

聖ヨハネ讃歌

Ut que-ant la - xis (Re) so - na - re fi - bris (Mi) - ra ges - to - rum (Fa) mu - li tu - o - rum
(Sol) - - ve pol - lu - ti (La) - bi - i re - a - tum Sanc - te Jo - han - nes.

【歌詞の大意】あなたのしもべたちが、のどの筋をゆるめてあなたの偉大なみわざをたたえることができますように、かれら罪人の唇から汚れを取り除いて下さい、聖ヨハネ様。

歌詞はパウルス・ディアコヌス（助祭パウルス）720頃～799の作とされ、後にガイド・ダレッツォ（10世紀末～11世紀初頭）が修道士達に聖歌の歌い方を学ばせるためにこの歌詞に旋律を付けたとされている。後に"Ut"は"Do"に変化（フランスでは現在も"Ut"）。"Si"は"Sancte Iohannes"からと考えられる（古くは"J"のかわりに"I"が用いられた）。13世紀に書かれたヤコブス・デ・ウォラギネによる『黄金伝説』にはこの歌詞の由来について次のように書かれている。

ランゴバルド人の歴史家、ローマ教会の助祭、モンテカシーノの修道士であったパウルスは、あるときろうそくを聖別することになったが、いつもはなかなかのど自慢であったのに、急にのどがかすれて声が出なくなった。そこで、声が出ないように祈りますようにと願って、聖ヨハネのために、「おお、おんみのしもべたちが、みわざをたたえる喜びの声を張り上げることができますように」という讃歌をつくった。この冒頭の詩句は、かつてザカリアに声もどったように、わたしにも声をもどしてくださいますようにというパウルスの祈りなのである。